

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 フェーズ 2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

DATECAREER が学生と企業の“架け橋”となり、学生のキャリア形成における新たなプラットフォームをつくる

（応募チーム：DATE CAREER）

（特徴）

仙台は東北地方の大学生が集まってくる学都でもあるが、課題は宮城県内の大学生が首都圏などに就職してしまう傾向にあることである。この流れを少しでも緩和するために学生と地元企業とそれぞれに支援して双方の情報不足理解不足のギャップを埋める活動を学生が主体的に行うところに特徴がある。



（アドバイス）

（１）学生のアイデアの問題としての継続性の確保とサポート企業の役割への期待

DATECAREER が学生チームのプロジェクトであることから、これをどう後輩につなぎ継続させていくかが大きな課題です。そのために、DATECAREER の活動の学生や企業への周知方法の工夫や（２）のような活動自体により魅力を持たせる工夫をすることにより、後輩学生のリクルート方法についても検討を加えていくことが望まれます。できれば参画する学生の数も拡大していただければと思います。

また、地元企業との接点となるベンチャーの（株）epi&company との連携は強みであるので、この強みを生かして学生の継続性を担保できる仕組みを工夫することが望まれます。その際に、この活動の自立には、学生の誘因、企業からの求人、運営財源の確保を一体とらえて運営していくことが不可欠で、サポート企業が上手く間に立って学生と共に歩むことを検討されてはいかがかと思います。

（２）就職活動に限定しない社会活動の魅力の醸成

DATECAREER の目的を就職活動だけに限定していると、学生の関心の広がりに限界があるかもしれません。そこで例えば、社会に出ると必要な人間関係講座の開講とか「TOHOKU NAVI」の開発にあたっては学生に関心を持たれそうなコンテンツの提供にも工夫を凝らしていただければと思います。

（３）将来の東北一帯への拡大

今のところは仙台及びその周辺に限られた活動ですが、このプラットフォームは教育機関のある他の東北地域でも応用が可能と思われるので、DATECAREER の成功を見届けたくうえで、TOHOKUCAREER に発展させていくこともきちんと視野に入れて活動を展開されることを期待します。

（４）仙台市のサポートと連携

今回の応募に当たって仙台市との連携も大変うまくいったようですが、これからこのプロジェクトが継続発展していくために、思いを同じくする仙台市と一緒に今回の受賞の PR や活動の拡大への協力も大事だと思います。これがこのプロジェクトの信頼を高める方策の一つとも考えられます。